

まえがき

長引くデフレーション、景気低迷のトンネルから抜け出そうとしている日本経済において、巨大半導体メーカーの進出により成長の記憶を呼び起こそうとする九州地域産業。日本国内では明るい空気が流れ始めていますが、絶え間ない地域紛争、激化する一方の貿易摩擦、産業科学技術競争など、発展を阻害するグローバル的不確実要因が地域に影を落としたままです。九州地域の地方自治体、産業界はバブル崩壊後の長い、暗い景気低迷のトンネルから抜け出し、本格的な再生、持続発展の軌道に乗れるか、問われています。一面的な情報に惑わされることなく、不安定な国際情勢をあらゆる角度から分析した上で方向を定め、かねてから緊密な連携関係を維持してきた九州と東アジアは知恵を絞り、さらなる強靱な地域間協力学スキームの構築・維持が強く求められています。

本中国ビジネス研究センターは今年創設 10 周年を迎える予定です。毎年の春に、交流関係にある海外専門職大学院、研究機関の専門家を招いた、研究成果の公表を兼ねた新春特別セミナー(専門的なイメージを持たせる目的で、「東アジア経済論壇」と名付ける国際シンポジウム)を企画し開催して来ました。シリーズ化した特別セミナーは終始東アジア地域内における経済産業連携、相互支援の在り方をメインテーマにし、なるべく毎回比較的に明白な分野に絞ったテーマ設定に努めています。第8回目に当たる「2024 新春特別セミナー」は、「東アジア地域内の経済連携と直接投資の促進効果」をテーマに設定し、地域戦略研究所アジア地域連携部門共催、北九州商工会議所、日刊工業新聞社の後援を受けて、北方キャンパス内のフランキー・ウー・アジア国際交流ホールで5年振りに対面方式で成功裡に挙行了しました。

日本と海外から学術界を代表する交流先の学者や専門家8名が加わるパネリスト計10名が参加し、前半と後半の二セッションに分けた討議方式で行われた。開会の代表挨拶は本学の柳井雅人学長が行い、モデレーターは大阪経済大学経済学部福本智之教授（第一セッション）と中華ビジネス研究センター長 王効平教授（第二セッション）が務め、全体司会はセンター特任研究員藤高美海が務めた。

第一セッションでは東アジア地域学術交流先の研究者、地方自治体の代表、専門家を招き、「城内直接投資の連携促進効果」をテーマに東アジア地域における直接投資の現状と課題に焦点を絞って議論を進めました。趣旨は地域紛争、貿易摩擦、産業科学技術競争の激化などグローバル的不確定要因が地域間連携交流に影を落とす中、巨大半導体メーカーTSMCの九州進出が、低迷が続く日本経済に成長の記憶を呼び起こしてくれたことを捉え、九州と東アジア地域との強靱な協力スキームの再構築・維持を求めるものにありました。

福本智之教授による問題提起をもとにパネルディスカッションが行われました。パネリストの北九州市片山憲一副市長が、九州地域経済における直接投資の効果、北九州市への影響、本市の取り組みと課題について具体的に紹介しました。南洋理工大学（シンガポール）の劉宏副学長（兼公共管理大学院長）が、ASEANにおける華人系資本の投資動向、直接投資を媒介とした経済連携の成功事例を紹介し、地域間の更なる連携深化の重要性を訴えました。香港貿易発展局游紹斌日本首席代表が、香港が中国大陸とのビジネスのゲートウェイであるだけでなく、アジアの国際金融センター、国際物流センターの機能が依然として強健であること、香港を中継地とした日本と東アジア市場との新たな連携の可能性に対して大きな期待を寄せていることを語りました。国立中興大学（台湾）管理学院EMBA専攻の袁鶴齡教授（中華台商研究学

会理事長）が、TSMCをはじめとする台湾系企業の対外直接投資が地域経済にもたらす影響や課題について独特な見解を示唆しました。最後に、東アジア産業界、企業からみた日本そして北部九州の直接投資先としての魅力と問題点、投資促進のための施策について、パネラー各位から具体的なメッセージが寄せられました。

第二セッションでは、「企業の持続発展と事業継承」をテーマに、中華ビジネス研究センターの国際共同研究プロジェクトの成果報告を兼ねてモデレーター王効平教授の趣旨説明を受けて討議が繰り広げられました。「100年経営の会」の前田泰宏顧問（元中小企業庁長官）が、日本長寿企業の長寿要因、特に事業継承の特色について詳説しました。中国人民大学中国民营企业研究中心黄泰岩研究中心長（兼中央民族大学中国興辺富民戰略研究院長）が、中国における長寿企業の存在、民营企业の主要事業継承パターンと課題について具体的な実態調査データを元に紹介しました。義守大学（台湾）企業管理学部の鍾喜梅教授が、台湾の長寿家族経営企業の事例を通じて、台湾企業事業継承の成功要因と課題を論じました。中国評論通訊社（香港）の王平副社長（兼中評智庫基金会上席研究員）が、中華社会の宗族宗法觀念に関する研究成果を踏まえて、香港中華系企業事業継承における最新の動向を紹介しました。最後に日本の長寿企業の多さと関係調査研究成果に注目し、長寿要因に関する調査研究成果共有の意義について議論が交わされました。

2023年度の本論文集（叢書5）に収録された成果物7本は研究センターの海外協力機構の専門家と内部研究員によるものです。予算の制約もあり、提出原語のままとしていますが、関係研究領域における議論の深化、地域間交流の枠組み作りの一助になれば非常にありがたいと存じます。

編 者

2024年3月吉日

目次

まえがき

一 族群网络与治理策略：新加坡华商企业的跨国实践及其作用	1
新加坡南洋理工大学社会科学学院 刘宏	
导论	2
1 族群性、文化与跨国网络	4
2 “企业跨国主义”的提出	7
3 行动者、企业结构和治理策略	12
4 族群性与跨国网络：企业、国家和族群	18
5 企业发展的多重战略	24
结 论	27
二 從台積電赴海外設廠看台商外移趨勢及遭遇的文化衝擊	34
中興大學國家政策與公共事務研究所 袁鶴齡	
1 序言	34
2 兩岸關係發展的階段	35
3 台商出征 40 年	36
4 半導體的重要性	37
5 企業文化的差異	42
6 結論	47
三 中国家族企业代际传承的特点与创新	49
中央民族大学中国兴边富民战略研究院	
中国人民大学中国民营企业研究中心 黄泰岩	

1 中国家族企业代际传承的特殊性	50
2 中国家族企业代际传承的主要模式	56
3 中国家族企业代际传承的创新——创业式传承	61
4 家族企业代际传承对未来企业发展的影响	66
四 長壽企業與永續：長壽企業如何產生社會影響力	71
台灣義守大學管理學系 鍾喜梅	
1 緒論	71
2 華人長壽企業的企業社會責任與永續目標的選擇	74
3 舊振南案例與永續目標選擇	77
4 環球水泥案例與永續目標選擇	81
5 結語	84
五 中國大陸家族企業傳承的危與機	87
中評智庫 中國評論通訊社 王 平	
引 言	87
1 中國現當代家族企業的傳承帶有特殊的歷史印記	88
2 中國當代家族企業的傳承有“三危”	90
3 中國當代家族企業的傳承有“三機”	92
結語	97
六 外資誘致による地域經濟連携促進に関する考察	100
北九州市立大学中華ビジネス研究センター 王 効平	
1 問題提起	100
2 直接投資の經濟促進効果	102
3 日本の外資政策とその評価	106
4 地域における外資誘致の課題分析	107
5 TSMC の九州進出が示唆するもの	109
6 むすび	120

七 日中製薬市場における日本メーカーのデジタルマーケティング戦略の研究..... 126

北九州市立大学中華ビジネス研究センター 藤高美海

- 1 はじめに..... 126
- 2 理論的枠組み..... 129
- 3 日中製薬市場の分析..... 135
- 4 大塚製薬のデジタルマーケティング戦略の分析..... 142
- 5 むすび..... 158

2024 新春特別セミナー企画案..... 163

執筆者一覧（略歴）..... 166

執筆者一覧（目次順、敬称略）

劉 宏 南洋理工大学副学長兼公共管理大学院（シンガポール）院長
米国オハイオ大学歴史学博士（1995年）。1995年11月-2006年6月シンガポール
国立大学中国学部准教授、芸術&社会科学大学院院長代理、2006年7月-2010年
9月英国マンチェスター大学東アジア学部教授、同学科長、中国研究センター長
を経て、2010年10月よりシンガポール南洋理工大学人文社会科学院教授、学院
長、2014年1月より南洋公共管理研究院院長。英米の著名な学術雑誌編集長をは
じめ、計30数誌の編集委員、審査委員を兼務。

専門領域：歴史学、移民史、華人ネットワーク。

主要業績：東南アジア社会研究、華僑・華人ビジネス・ネットワーク研究で
顕著な業績をあげ（単行本著書18）、多数回学術賞を受賞。シンガポール華人
協会連合会常務理事、シンガポール孫文南洋記念館学術委員会委員、シンガポ
ール教育省中国研究教程開発部委員、米国オハイオ大学海外華人研究センター
アドバイザー委員会委員、英国ロンドン大学連合中国委員会副会長、世界華
僑・華人研究機構&図書館連合会常務理事などの公職を務めてきた。

袁 鶴齡 国立中興大学管理学院 MBA コース教授、同大学台湾ビジネス研究セ
ンター長、中華台商研究学会理事長
米テキサス大学オースティン校（University of Texas at Austin）政治学博士取得
（1994年）国立中正大学政治研究所専任准教授、国立中興大学法政学部設置担当
院長、国際政治研究所教授兼所長、国家政策・公共事務研究所所長を歴任し、
2008年より管理学院 MBA コース「ビジネス交渉」、「リスク管理」を担当、現
在に至る。夏潮基金会取締役、若水堂図書株式会社取締役、邦泰復和材料株式

会社社外取締役、中強電子株式会社監査役、台中市政府市政顧問ほか多数の社
会的公職を兼任。

専門領域：国際政治経済学、世論調査分析、交渉戦略とクレーム処理、台湾企
業の多国籍化

主要業績：単著『危機管理：理論、架構、方法與案例』台北新學林（2024年3
月）；単著「臺灣加入區域經濟組織的策略選擇『研習論壇』第165期，共著「從全
球治理的權力類型探究兩岸合作的可能模式」『中國大陸研究季刊』第55卷第2
号（2012）ほか。

黄 泰岩 中国人民大学中国民営企業研究センター兼中央民族大学中国興辺富
民戦略研究院院長

中国人民大学経済学博士号取得（1988年）。

中国人民大学経済学院准教授、教授、副院長を経て、2002年～2005年中国人民大
学経済改革発展研究院院長、同大学『経済理論與经济管理』編集長、2005年より経
済学分野長江学者に選ばれ、2011年遼寧大学副学長、2012年より同学長、2015-
2020年より中央民族大学学長。1993年-1995年米国サウスカリフォルニア大学客
員教授。全国大学経済理論・実践学会秘書長、中国経済発展研究学会長、国家
社会科学基金審査委員会委員を歴任。

専門分野：市場システム、企業戦略論。

主要業績：中国経済の市場化改革、民営企業の育成をリードしてきた著名な経
済学者。毎年度編集出版される『中国経済熱点前延』、『国外経済熱点前延』
シリーズは中国における経済理論研究の実情分析、方向付けに大きな影響を及
ぼしてきた。中国全国人民代表大会代表、中国中小企業国際協力協会常務理事、
複数の上場企業の社外取締役ほか多数の公職を兼務してきた。

鍾 喜梅 義守大學（台湾）管理学部教授

中山大学（高雄）大学院管理学博士号

中華商管教育發展學會理事、「全球性家族企業代際創新研究計畫」（STEP Project for Family Enterprising）、全球委員會代表（STEP Global Board Member）、全球性家族企業研究計畫（STEP Project for Family Enterprising）代表、亞太區域委員會代表（Representative, STEP Asia Pacific regional council）（2009年12月-2014年02月）デンマークコペンハーゲン大学外部協力研究員、台湾の代表的な専門誌『中山管理評論』、『人力資源管理學報』、『組織與管理』ほか、国際学術専門誌Asia Pacific Journal of Management, Asia Business & Management, Family Business Review, Journal of Family Business Strategy の編集委員、論文審査委員を歴任。

専門分野：同族企業経営戦略・ガバナンス、華人ネットワーク・意思決定。

天下雑誌、日経（アジア版）への寄稿、ハーバードビジネスレビュー（中国語版）ほか専門雑誌に多数寄稿。代表的著作物として、「台塑集団・長榮集団事業継承研究」（フランス INSEAD 出版）、「合隆事例研究」（Singapore Management University）、「中小企業傳承與創新」（編著、台湾）、Succession and Innovation in Asia's Small-and-Medium-Sized Enterprises (Singapore: Palgrave Macmillan), Innovation, Growth, and Succession in Asian Family Enterprises (The Johns Hopkins University series on Entrepreneurship, Edward Elgar Publishing Limited) 等。

王 平 中国評論通信社副社長、中評智库（シンクタンク）上席研究員、香港嶺南大学経営学修士号取得（2022）。

中国評論通信社機関誌『中国評論』（月刊）副編集長、編集長を経て、現職。香港返還前後の変化に焦点を絞った『改革開放40年-香港の不安と未来』の刊行、「中国評論通信」の社説、論説の執筆、中華地域各界代表インタビュー、特集

企画多数に携わってきた。1999年以来、中国文化の根底にある宗法宗族觀念の存在を掘り下げ、特に中国の工業化発展の促進要因について、中国製造、イノベーション、人的資源、ガバナンス能力の4つの側面に分けて、宗法宗族觀念が及ぼした影響を学際的に多面的に検証してきた。

主要業績：単著『宗法宗族觀念：中國製造創新的關鍵文化基因』商務印書館出版（香港），2022年；単著『宗法宗族思想觀念與中國私營企業管理』嶺南大學（香港）2003年。

王 効平 北九州市立大学大学院マネジメント研究科教授、同中華ビジネス研究センター長

九州大学大学院経済学研究科博士後期課程修了、経済学博士。財団法人国際東アジア研究センター専任研究員、北九州市立大学商学部准教授、同経済学部教授を経て、2007年より同研究科教授、2011年-2017年同研究科長、2014年より中華ビジネス研究センター長、2018年より大学院社会システム研究科博士後期課程教授。1995年～96年 UNIVERSITY OF CALIFORNIA AT BERKELEY 訪問研究員。学会活動では、東アジア学会理事、日本華僑華人研究学会理事・学術委員、マカオ大学管理学院アドバイザーボード委員、大学基準協会経営系専門職大学院評価委員会委員などを歴任し、ほか主要社会活動実績として、福岡市マスタープラン審議会委員、同経済構造審議会委員、日本港湾協会東アジアコンテナ航路調査委員会委員、アジア経済研究所・九州経済調査協会「九州のアジア化戦略研究会」委員、国際金融情報センター「企業経営研究会」代表などを歴任。

専門領域：国際経営、比較経営、アジア型経営

主要業績：編『日中長寿企業の経営比較』（中央経済社、2021年）；共編『新世紀東亞的經濟整合』（中国評論学術出版社、2007年）；共著『日中韓企業の経営

比較』（税務経理協会、2005年）、単著『華人系資本の企業経営』（日本経済評論社、2001年）ほか。

藤高 美海 北九州市立大学中華ビジネス研究センター特任研究員、日本先進医療研究所代表

北九州市立大学大学院社会システム研究科博士後期課程修了、学術博士（2022年）
産科臨床、（株）日本理工医学研究所の勤務を経て、医療インバウンドを主幹事業とする会社の経営に携わり、病院経営アドバイザーや ISGE JAPAN のディレクターなどを務めている。

専門領域 医療経営 国際経営 医療インバウンド

主要業績：単著『病院の多角化経営』（学術研究出版、2023、博士論文の公開出版物）。単著「日本医療保障制度に関する考察：東アジア域内医療経営国際連携の意義の提起」『東アジア企業の持続発展と国際戦略的提携』（2023）。単著「With COVID-19 時代における医療経営に関する考察」北九州市立大学『社会システム研究』（2023、社会システム研究 21 号）。単著「医療法人の多角化経営モデルに関する研究」（2022、北九州市立大学博士学位請求論文）。単著「日本における医療崩壊に対する考察」（2021、社会システム研究 19 号）。単著「日本医療制度の構造的課題に対する考察」（2020、社会システム研究 18 号）。